

重点施策 (計画書掲載頁)	所管課	第2次基本計画における「成果と課題」
1 基礎・基本の定着と 学ぶ意欲の向上 (P20-21)	指導課	国及び都、さらには市独自の学力定着度調査を実施し、小学4年生から中学3年生まで、6年間にわたる学力や学習状況等を把握し、各学校において個に応じた指導の充実及び授業改善に役立ててきた。
		アシスタントティーチャーの活用や、保護者や地域の人材と連携し、土曜や放課後の補習を実施し、児童・生徒の習熟度に合わせた個別学習の充実を図ってきた。
		市独自の学力定着度調査の結果に基づき、基礎学力の定着を図ることを目的に「八王子ベーシックドリル」を開発し、授業や家庭学習などで活用した。
		基本的な学習の定着が十分でなく、依然学力定着度に差が見られるため、個に応じた指導の充実を図り、市の習得目標値未達の児童・生徒数を減少させていく必要がある。
		児童・生徒の個々の課題に応じた学習指導を充実させ、学力の向上を図るために、アシスタントティーチャーの増員や活用を充実させていく必要がある。
		学校の教員だけでなく、地域の保護者等と協力し、放課後等の補習に取り組むことやアシスタントティーチャーなどの活用を更に充実させる必要がある。
		今後も市独自の学力定着度調査の結果を踏まえ、指導の改善に取り組む必要がある。
		家庭と連携を図りながら、主体的に学ぶ意欲を養い、児童・生徒の学習習慣を定着させることが重要である。
2 自分を大切に、他 者を思いやる心の育成 (P22-23)	指導課	「いじめを許さないまち八王子条例」や「八王子市教育委員会いじめの防止等に関する基本的な方針」に基づき、「学校いじめ防止基本方針」の内容の充実を図り、いじめ防止に向けた校内体制を整備してきた。
		条例や基本的な方針の趣旨を広く市民に周知するとともに、全教職員がいじめ防止に関する対処や取組について、理解を深める必要がある。
		小中一貫教育施策推進委員会において、小・中学校9年間を見通した人権教育や道徳教育の充実を図るため、授業展開や指導方法の工夫について調査研究を進め、研修会等で情報共有し、各学校で活用してきた。
		特別活動を中心に、異年齢交流活動や係り・委員会活動等を通じて、児童・生徒が活躍できる場や機会を設定し、自己肯定感や自尊感情を高める取組を進めてきた。
		いじめの防止に関するリーフレットを活用し児童・生徒、保護者、地域向けにいじめを防止することの重要性、いじめに係る相談体制等について啓発するとともに、SNSの活用について、学校での指導の充実、保護者への更なる意識啓発が必要である。
		いじめの未然防止や発生時の迅速な対応を図るため、児童・生徒の学校生活上の状況を継続的に把握することが必要である。
		特別の教科 道徳を要として、道徳教育を教育活動全体で行い、人間として持つべき規範意識や公共の精神、自他の生命尊重、自己肯定感など、児童・生徒の豊かな心の育成することが求められている。
8 体力向上に向けた 取組の推進 (P34-35)	指導課	2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催を契機に、全校でオリンピック・パラリンピック教育を推進した。
		体育や保健体育はもとより、道徳科や総合的な学習の時間、外国語活動など、さまざまな教科を通じて、オリンピック・パラリンピック教育を実施し、体力の向上や子どもたちのスポーツ振興につなげた。
		小中一貫教育施策推進委員会や研究授業、体育主任研修会などでの研究成果を活用することで、体育科や保健体育科などの授業改善を図り、教員の意識や授業力向上へつなげた。
		全小・中学校で、体力・運動能力、生活習慣等調査の結果から、「体力向上推進計画」を策定し、各学校において具体的な改善目標を設定し実態に応じた取組を実施することで、体力の向上を測った。
		オリンピック・パラリンピアンとの活動により、教員研修や研究授業などの充実を図り、体力向上の良い取組について情報を共有するなど、教員の授業力の向上を図る必要がある。
		児童・生徒の運動に対する関心や意識を高めるために、自らすすんで運動しようとする態度の育成を図っていく必要がある。
		家庭に向けて、日常生活の中で運動をすることの重要性を啓発し、子どもたちの基礎体力の定着につなげる必要がある。

重点施策 (計画書掲載頁)	所管課	第2次基本計画における「成果と課題」
9 特別支援教育の 充実 (P36-37)	教育支援課	<p>国は、平成19年4月に学校教育法の一部を改正し、従来の特殊教育から特別支援教育への転換が図られた。その後平成24年7月に公表された中央教育審議会初等中等教育分科会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」を踏まえて学校教育法施行令が改正された。さらに平成28年4月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、学校における合理的配慮の提供が明確に求められるようになった。東京都教育委員会では、平成28年2月、通常学級に在籍する発達障害と考えられる児童・生徒の現状を踏まえ「東京都発達障害教育推進計画」を策定し、全小中学校への特別支援教室設置が示された。</p> <p>八王子市では平成18年に「八王子市特別支援教育推進計画」を策定した。その後、平成25年に「第二次計画」を、平成28年に「第三次計画」を策定し、教員の研修制度の確立や地域の支援者による人的支援体制の充実、地域の小・中学校における特別支援学級のバランスの良い配置、特別支援教室の全小学校導入、都立特別支援学校等と連携した地域ネットワークの構築等に取り組んできた。</p> <p>特別支援学級の在籍児童・生徒は、平成25年度の小中合わせて554人から、平成30年度には654人に増加しており、特別支援教室で指導を受ける児童数は、特別支援教室開始前の平成27年度の466人から、全校設置が完了した平成30年4月には916人と約2倍に増加している。平成26年に東京都が全小学校に行った調査では、通常学級に在籍する発達障害の可能性があると考えられる児童の在籍率は東京都全域で6.1%となっており、同調査における八王子市の在籍率は8.16%であった。今後通常学級に在籍しながら特別な支援を受ける児童はさらに増加することが推測される。</p> <p>児童・生徒の発達段階や障害に応じた指導・支援の知識は、インクルーシブ教育が推進される中ですべての教員に求められ、特別支援教育への理解と指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>また、平成29年度より、乳幼児期から就学・進学・就労などのライフステージの節目において困ることがないよう、市の教育、保育、障害、医療、産業に関わる各所管が連携した「はちおうじっ子・切れ目のない支援『マイファイル』」を開始した。今後は普及・啓発を図り、切れ目のない支援をさらに充実させていく必要がある。</p> <p>共生社会の実現を目指し、特別支援教育の理解が保護者や市民に広がるよう、様々な機会を通じて啓発活動に取り組む必要がある。</p>
15 小中一貫教育の 充実 (P48-49)	指導課	<p>中学校を中心とした小・中学校グループで、「9年間で育てたい児童・生徒像」を設定し、「小中一貫教育全体構想」を作成した。</p> <p>今後は、小中一貫教育全体構想を実践するための具体的な取組を教育課程に位置づけていく必要がある。</p> <p>小中一貫教育推進委員会で教科別に委員会を設置し、学びによる連続性や発展性に配慮した授業研究を行ってきた。各委員会において、「小中一貫教育指導資料」の改定をし、全教員で共有し、日々の授業改善に役立てた。</p> <p>地域の特性に応じた小中一貫教育を推進するため、小中一貫教育推進講師を配置し、効果的な教育手法などについて研究・調査を行った。</p> <p>義務教育9年間を見通した指導にはどのような効果があるのかなど、小中一貫教育推進講師の活用方法について、有効性を検証していく必要がある。</p> <p>義務教育学校の制度化にともない、施設一体型の小中一貫教育のあり方について、いずみの森小中学校で研究を進めた。</p> <p>いずみの森小中学校を再編し、市内初の義務教育学校として開校し、教職員の組織体制や教育課程など、今後の義務教育9年間の教育内容の効果検証を行う必要がある。</p>
17 教員研修の充実 (P52-53)	指導課	<p>「八王子市の教育に求められる教師像」をめざし、本市の歴史や文化財、学園都市、市民力を活かした研修を行い、教員の地域に対する愛着を醸成し、地域を活かした授業づくりができる力を育てた。</p> <p>「更なる教員研修の充実・取組」のためには、教員の実態やニーズを踏まえた本市独自の研修を実施していく必要がある。</p> <p>若手職員の採用増加に伴い、産育代替教員・時間講師等の資質向上に対応した研修を充実していくために、力のある教員の授業の参観や、指導力パワーアップ研修を受講させ、資質向上を図った。</p> <p>新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の具現化や「外国語科」に対応した新たな課題に対する研修の充実が必要である。</p>

重点施策 (計画書掲載頁)	所管課	第2次基本計画における「成果と課題」
18 学校の経営力向上 (P54-55)	施設管理課 指導課	「学校提案型予算」の活用により、学校の企画立案力の向上や独自性のある学校運営を推進することができた。
		予算獲得にあたり、校長が企画案のプレゼンテーションを行うことにより、管理職としての自主的・自律的な学校経営能力の向上を図ることができた。
		企画力の差により、教育内容に格差が生じてしまうことが懸念される。すべての学校の企画立案力向上させ、自主性・独自性を発揮できるよう支援していく必要がある。
		保護者向けに学校評価についてアンケートを行い、学校運営における目標の達成状況を把握し、取組の適切さを検証することで、組織的・継続的に改善することに努めている。
		また、学校評価の結果や改善策を学校だよりや学校のホームページに公表し、保護者や地域の教育活動への参画意識を高めている。
		信頼される学校経営をめざして、校長がリーダーシップを発揮し、学校経営の基盤となる各種管理体制や指導体制、学校評価等の充実を図るとともに、説明責任を積極的に果たす必要がある。
		校長や副校長、教員を対象に職層に応じた研修を行い、学校の経営力の向上を図っている。  「社会に開かれた教育課程」を実現するために、学校評価の情報や課題の改善を図るための具体的な方策を地域と共有し、地域の力を活用した教育活動を推進することも重要である。
20 地域運営学校の 拡充 (P58-59)	教育総務課	これまで、全小・中学校学校運営協議会を設置することをめざしてきたところであるが、平成31年4月をもって、設置が完了し、全小・中学校が地域運営学校として学校運営を行っている。
		新たに実施した「学校運営協議会企画事業」では、学校運営協議会の予算を充実させることにより、地域人材の活用や学校運営協議会が企画した特色ある取組を支援し、教育活動の充実や地域連携の基盤を整備してきた。
		小中一貫教育推進の基盤づくりや地域課題解決のため、隣接する小・中学校の学校運営協議会の連携を進めている地域もある一方で、連携が取れていない地域もある。
		学校を核として地域が一体となって子どもたちを育む仕組みを持続し、さらなる学校運営の充実を図っていくうえで、同じ中学校区の小・中学校の学校運営協議会間の繋がりをつくる必要がある。
		学校支援に留まらず、本来の役割である校長とともに学校運営について考えることができる質の高い学校運営協議会となるよう、研修会の開催や協議会間で、各学校運営協議会での協議内容や取組事例を情報共有していくことが重要である。  継続性のある安定した学校運営を推進するため、学校運営協議会委員の担い手を確保することが必要である。引き続き、学校運営協議会の制度について、保護者や地域住民等への周知を図るとともに、学校への関心を高める必要がある。
25 学校の再編と施設 の充実 (P66-67)	学校教育政策課 施設管理課 学校複合施設整備課	市内には小学校70校、中学校38校の合計108校があり、およそ8割が建設後30年を経過していることから、計画的な改築・改修をする必要性が迫っている。
		安全性を考慮し、校舎と体育館の構造部の耐震化及び、天井材など非構造部材の改修を計画的に実施している。
		築30年を経過した学校から優先的にトイレ改修を進めているほか、特別教室への空調機の設置を行い、快適な学習環境を整備することができた。
		市立小・中学校に通う児童数は昭和57年の43,914人、生徒数は昭和61年の22,663人をピークに平成30年度では児童数は37%、生徒数は43%減少している。
		児童生徒数のピーク時以降も開発等に伴い学校を建設してきたが、少子化の進行により小規模となっている学校もある。
		学校施設は、子どもの学びの場であるとともに、遊び場や、地域の避難所の役割を担っていることから、地域の拠点となるよう適正に配置することが求められている。  少子高齢化や人口減少など社会情勢の変化を踏まえ、学校施設を再編するにあたっては、施設の老朽化や複合化への対応が不可欠であり、まちづくりの視点での全庁横断的な検討が必要である。

重点施策 (計画書掲載頁)	所管課	第2次基本計画における「成果と課題」
26 学校ICT環境の 充実 ( P 68-69 )	教育総務課	2020年度から実施される小中学校の新学習指導要領では、情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けている。
		国は、新学習指導要領の実施を見据え、「2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を取りまとめ、ICT環境整備を加速させている。
		本市では平成26年度に「八王子市教育情報化推進プラン(平成27年度～29年度)」を策定し、同計画に基づき、教育の情報化を推進している。
		ICTを活用した分かる授業を実現するため、平成27年度に全小中学校の普通教室及び特別支援学級(固定級)に教材提示装置(書画カメラ)及びプロジェクタを配備した。また、平成30年10月、小学校コンピュータ教室のコンピュータ40台をタブレット化し、コンピュータ教室のみならず、普通教室でもICTを活用した授業を実践した。
		ICTを活用した授業の実践及び校務の負担軽減を図るため、平成29年度にICT支援員を1名増配置し、支援体制を強化した。
		教員の校務負担軽減を図り、児童・生徒一人一人に向き合う時間を確保するため、平成29年4月、全小・中学校で統合型校務支援システムの利用を開始した。
		しかし、平成29年10月に国が示した「教育情報セキュリティポリシーガイドライン」に基づいた整備や、12月示した「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」に掲げられる水準を満たしていない。
		平成30年3月に第2次教育情報化推進プランを策定。本市が抱えている教育の情報化に関する課題を明確にし、6つの基本方針のもとに12施策の目標と、課題解決に向けた21の具体的な取り組みを掲げた。 毎年度、教職員対象の情報セキュリティ研修を開催しているが、例年、情報セキュリティ事故が発生しているため、研修のみならず様々な機会を捉えて、教職員の情報モラル意識の向上を図っていく必要がある。(平成27年度8件、平成28年度9件、平成29年度8件)
28 家庭教育支援活 動の推進 ( P 72-73 )	生涯学習政策課 指導課	子育ての疑問や悩みを解消するとともに、保護者の孤立化を防ぐため家庭教育支援講座を開催してきた。
		少子化や核家族化など、子育て家庭を取り巻く状況の変化により、マナーや生活習慣等の家庭での教育力の低下が懸念される。子育ての疑問や悩みなど、身近に相談できる相手が少なく、保護者に自己肯定感を持たせることが重要である。
		就学前から潜在的に悩みを抱えている保護者については、就学後も引き続き支援をしていくなど、これまで以上に「切れ目のない」家庭教育施策が必要である。
		家庭教育力の向上に向けて、家庭だけではなく、地域全体で子どもと子育て家庭を支えていくよう啓発が必要である
		家庭の教育力を高めるため「家庭教育8か条」を配付し、家庭教育の啓発に取り組んできたが、リーフレットの策定から約10年が経過し、時代背景が変化していることから、民生・児童委員や小中学校PTA関係者等から意見聴取のうえ、見直しを行った。
		保護者間や学校とを繋ぐことで、家庭教育を支援する人材の育成が必要である。
		家庭教育支援施策の更なる充実を図るため、有識者等で構成する「家庭教育施策支援アドバイザー」を設置し、情報提供・意見交換を行った。アドバイザーからの意見をもとに、より効果的な施策を検討するとともに関連所管との連携強化が必要である。

重点施策 (計画書掲載頁)	所管課	第2次基本計画における「成果と課題」
30 放課後の子どもの居場所づくり (P76-77)	生涯学習政策課	<p>国の「放課後子ども総合プラン」に基づき、全ての児童が放課後等を安全・安心して過ごすとともに、学童保育所と放課後子ども教室が一体的または連携し、多様な学び・体験・遊び・交流活動等を実施し、子どもの次代を担う力を育成してきた。</p> <p>学校施設を活用し、保護者や地域住民による地域の特色を活かした運営による放課後子ども教室は、平成30年度までに53校で実施。学童保育所の指定管理者による「放課後子ども教室」は、平成30年度までに12校で実施し、子どもたちを地域で支えている。</p> <p>すべての児童が放課後子ども教室に参加できるように、高尾山学園を除く全校実施が必要である。</p> <p>子どもたちの学習や体験プログラムが充実している教室がある一方で、プログラムが実施されない教室も見られる。</p> <p>担い手不足などの課題の対策として、学童保育所の指定管理者による運営を平成30年度までに12校で実施した。</p> <p>地域人材の担い手不足により安定した運営や、学校活動により場所を確保できず週5日の実施が困難となる教室がある。</p> <p>待機児童が多い学校では、校庭などを授業で使用する時間が多く、放課後子ども教室の活動場所を十分に確保できず、週5日実施校が増加しない。一方で、学校及び地域の方々に対し連携し働きかけを行った結果、週5日実施校が平成30年度までに24校に増加したほか、一部の学校では長期休業中も実施した。</p>
31 子どもの頃から始める学びの基礎づくり (P78-79)	生涯学習政策課 学習支援課 こども科学館	<p>青少年講座、家庭教育講座の開催にあたっては、生涯学習センターで活動する団体・サークル、NPO法人、市内大学、市内事業者、学習支援委員など多様な主体と連携して実施している。</p> <p>市と学校、企業が連携し、市の施設や「子育て応援企業」での職場体験・職場見学などを通じて、子どもたちが社会を学び職業観を養う取組を推進してきた。</p> <p>「青少年海外交流事業」や「読書感想文・感想画コンクール」などを通じた海外交流や北海道白糠町の小学生との都市間交流など、八王子の子どもたちが多様な学びや伝統・文化を学習し、体験する事業を実施してきた。</p> <p>各種講座の実施について、地域、市民団体やNPO法人、学校、企業など新たな主体との更なる連携を強化していく必要がある。</p> <p>こども科学館は平成29年度に大規模改修を行い、宇宙や科学をテーマにした体験型の展示物などを新たに導入。さらには、科学工作教室、科学実験ショー、星空観望会、化石観察会等様々な講座を開催し、子どもたちの宇宙や科学などに対する学びの機会を提供してきた。</p> <p>今後はJAXAとの教育連携を活かした講演会の開催や、子どもたちの科学に関する学びをより一層深めるため、幅広い分野の体験教室や講座を開催する必要がある。</p>
35 読書のまち八王子の推進 (P86-87)	図書館部	<p>インターネット等の高度情報化社会の進展に伴い、図書館の来館者数、図書館資料の貸出数が減少している。</p> <p>図書館に求められる機能が多様化してきており、自習スペースや乳幼児などの賑やかさを許容するスペースといった居場所としての機能が求められている。</p> <p>高齢化の進展に伴い、認知症や図書館に通うことができない方への対応が必要である。</p> <p>学校図書館支援の一環として図書館システムを導入した。第3次読書のまち八王子推進計画期間中には、団体貸出利用校数が増加した。</p> <p>団体貸出利用校数の増加にともない、小学生年齢の図書館利用率は上昇したものの、中学生・高校生年齢の図書館利用率は低いまま推移している。</p> <p>市民センターの地区図書室を図書館化することで、市民がより身近な場所で読書に親しめる環境づくりを推進した。</p>

重点施策 (計画書掲載頁)	所管課	第2次基本計画における「成果と課題」
39 スポーツを活用した 地域づくりと八王子の 魅力発信 (P94-95)	スポーツ振興課	都内随一となる20の総合型地域スポーツクラブが設立され、地域コミュニティの醸成や生涯スポーツ社会の実現に向け、一定の成果が表れている。
		各総合型地域スポーツクラブの活動状況はさまざま、総合型地域スポーツクラブを通じた地域スポーツの発展やその認知度はまだ不十分であるため、未発達地域に対して引き続き設立を促すことが必要である。
		総合型地域スポーツクラブのタイプ別に、それぞれの実情に合った支援策を検討していく必要がある。
		スポーツ関係団体と連携し、大会を主催するほか、各団体が実施するスポーツ・レクリエーション大会を、後援をするなど活動を支援。今後も引き続き、スポーツ・レクリエーションや障害者スポーツの分野で公益的な活動を行っているスポーツ関係団体に対する支援する必要がある。
		スポーツ推進委員等多くのスポーツ指導者がスポーツ活動の普及に尽力してきた。
		誰もが生涯にわたりスポーツ活動を行っていくためには、支える人材が必要不可欠。学校や地域のスポーツクラブなどでは、より専門性を有した人材を求めており、そのニーズに合った指導者をマッチングできていない状況。
		特に障害者スポーツについては、専門性が求められることから指導者の絶対数が不足している。
		市民のニーズに即した指導者の確保・育成を行うとともに、外部の人材を活用し、指導する人と指導して欲しい人を結び付けるしくみづくりが必要。
		スポーツには、本来持っている体力や健康の増進や、地域コミュニティの醸成などといった多面的な効果がある。
		スポーツと観光事業を融合した概念である「スポーツツーリズム」を意識した視点の重要性が増している。
		エスフォルタアリーナ八王子で、ボルダリングワールドカップや大相撲八王子場所の開催を支援したほか、八王子の自然環境を活かした陣馬・高尾をコースとするトレイルランニング大会「TOKYO八峰マウンテントレイル」を開催した。
41 文化財や伝統芸能の 保存・継承と活用 (P98-99)	文化財課	本市の歴史文化資源の魅力を伝え、市民が次世代へ継承していけるようにするための方向性を示す歴史文化基本構想を策定した。(平成31年12月策定予定)
		史跡や民俗芸能などの文化財を学ぶ講座や体験会、公演を実施し、市民が八王子の歴史を学ぶ機会を提供し、地域の歴史に対する市民の理解を深めてきた。
		講座や公演への参加者数が伸びないため、今後、参加者数を増やすための検討が必要である。
		「八王子車人形」については、学術調査を行い、今後まとめを行うことでその存在や歴史の周知に向けた取り組みを進めている。
		八王子城跡は史跡としての調査や整備とともに、魅力の向上のためソフト事業を展開し、来訪者数を増やすことも必要である。
		文化財や歴史、伝統芸能について、子どもたちや新たな市民など、幅広く理解を深めてもらい、郷土への誇りや愛着の醸成が図れるよう普及啓発や魅力の発信を充実していく必要がある。